



デザインを軸に街と人との新たなつながりを創出する

衣服などファッションアイテムの企画・デザイン・製造・販売

UNRESS 吉祥寺

中道通り商店会（武蔵野市）

access



東京都武蔵野市吉祥寺本町 2-18-6 ASAHI 8 番館102

<https://www.unress.com/>

<https://www.instagram.com/unress/>

活用した事業

・店主スキルアップ事業



アートやカルチャーを感じられるデザインで、着心地の良いアイテムが揃う。店の奥は、パターン作りやデザインをするアトリエになっている。



吉祥寺の街をグラフィカルにデザインした「We Love Kichijoji Bandana」の製作が、街とつながるきっかけに。

店内の古いブルドッグの置物からデザインを着想。グラフィックデザインは親交のある漫画家の書き下ろし。

開業前のチャレンジショップ出店で 店舗経営の難しさを実感

吉祥寺を代表するショッピングストリート「中道通り」から脇にそれると、しゃれたアパレル店が現れる。店主でデザイナーの矢嶋勇亮さんは、生まれも育ちも吉祥寺。2012年にブランドを立ち上げて以降、個人的なアイテムを世に送り出してきた。

2024年に店舗を開業するが、その前に、吉祥寺にある東京都チャレンジショップ「創の実」で1年間の出店経験を積み、店舗経営の難しさを知ることになる。「モノを作る側の出身なので、いいモノを作れば売れる、というちょっと頭でっかちな部分があったのですが、その思いが砕かれました」と矢嶋さん。接客や対面販売の方法、月別・季節ごとにスケジュールを立てて店舗を管理することなど、すべてが新しい経験で、勉強になることが多かったという。

多方面の専門家から支援を受け ビジネスの土台を堅固に

開業後、「店主スキルアップ事業」を活用し、3人の専門家から支援を受けた。ITコンサルタントからはWebやSNS運営について、また、ブランディングについては、「創の実」時代からお世話になったアパレル業界出身の専門家に店舗運営を円滑に進める



歴史的な名画「最後の晩餐」を刺繍でポップに表現したトレーナーは人気商品。最近では生産が追いつかないとのこと。



オリジナルアイテムに加え、親交のあるアーティストや漫画家とコラボレーションした商品も多数。

ための年間スケジュールの策定やレイアウトの構成などの助言を得た。

さらに、今年度内の法人化に向けて中小企業診断士資格を有する税理士から、法人化のタイミングや経営全般に関するアドバイスを受けている。矢嶋さんはUNRESSの活動とともに吉祥寺の地域に根差した活動を進めており、法人格のない団体の設立など将来を見据えた関わり方についての助言もあり、問題や課題を一つひとつ着実にクリアしていることが伺える。専門家から多角的な視点で見てもらうことで、ビジネスの土台が堅固になりつつある。

地域活動で生まれる出会いを デザインに落とし込む

矢嶋さんは、コロナ禍で街が活気を失いつつあったときに、街と店舗を応援したいとの思いから吉祥寺の地図を全面にデザインしたバンダナを製作したことがある。これが反響を呼び、多くの人とつながるきっかけになったことから、街への意識が高まったという。今は武蔵野市と地域と協力し、近隣の都市公園を整備して花を植える計画が進行中だ。

「地域の皆さんと協力して花を植える活動をする事で新たな出会いが生まれる。ブランドとして花に関連したプロダクトを展開していくことで行動にもデザインにも説得力が出ると思うんです。ただカッコいいものを作るのではなく、街と連携し、プロダクトを生み出していく。その面白さに気づきました」と矢嶋さん。

UNRESSという点が人とつながって線となり、街へ広がって面となる。デザインを軸にしたスケールの大きな事業が始まっている。